

①札幌オリンピックミュージアムを活用した学習モデル	
山本座長	1972年オリンピックでまちができたことを教えるなら「社会科」が一つの切り口
來田委員	招致の段階でミュージアムを保有していることが北海道・札幌らしさ
來田委員	ミュージアムに加えてジャンプ台の空間を使い、学習と運動を融合
來田委員	自分自身が歴史の一部になれる場を作る
來田委員	答えのないものに向き合う「アクティブラーニング」を行う
山本座長	体験型の学習を通して子どもたちの新しい価値を生成する
山本座長	環境問題やスポーツ振興を進める中にある課題に気づくことも重要な視点
鈴木委員	物に触れることが重要
鈴木委員	展示しているものの歴史や背景が分かる工夫が必要
永瀬委員	実際に選手が使用したものでなくてもいいので道具を備品として所持するべき
鈴木委員	学校からミュージアムまでの移動時間も活用
永瀬委員	車いすの児童も一緒にバス移動できるようにしてほしい
鈴木委員	本取組に賛同してくれる大手バス会社からの提供など民間の活用も考えたらいい
秀島委員	中学校でミュージアムを活用するなら「総合的学習の時間」
秀島委員	旅行的行事に取り入れることも可能では
山本座長	ジャンプ台を使ったロボコンなど教科横断的な学習を行えるのでは
阿部委員	ジャンプ台のバックヤードツアーも併せて行い、札幌のまちを見下ろす体験をする

第1回札幌市オリンピック・パラリンピック教育検討会議 意見要旨

②札幌らしさを生かしたオリパラ教育の「実践事例集」と「副教材」	
阿部委員	講演時に必ず伝えることをまとめ、その後に体験談を話してもらう というような枠組みを示すと、引受け手が増えると思う
永瀬委員	パラリンピアンが全校に訪問することは不可能なため、「I'm POSSIBLE」を 活用してほしい
來田委員	モデル授業が上手くいかなかった場合、どこが問題だったかも落とし込む
山本座長	失敗事例を含めて記録に残すべき
來田委員	マニュアル化するのではなく、色々試して失敗していいという空気感を事例集に 残したらいい
來田委員	光と影の両方を見て、解決しようとする思考に導く学習をするべき
來田委員	影の側面も事例として落とし込むべき
山本座長	失敗事例も語り継ぐことに意味がある
荒委員	対象が小学3年生であれば、わかりやすいことを題材とし、 子どもが夢を持つような時間にしてほしい
鈴木委員	小学3年生を対象にするなら、「フェア」という価値を重視して教えてほしい
鈴木委員	施設の歴史についても触れるとおもしろいのでは
永瀬委員	特別支援学級の子も一緒に学習を行ってほしい
鈴木委員	地理や気候がこれほどオリンピック開催に適したまちは少ないという ことを根本に教材を作っていたらと思う
(成田委員)	アスリートの良いところ悪いところをありのままに伝えることで 身近に感じ、逆にすごさを伝えられるのでは
(成田委員)	先生や生徒たちはアスリートを「特別な人」という見方をしており、 違う世界の人と感じていることが多く、その指導や感想に違和感を覚える ことがある。栄光や結果だけでなく、裏にある努力や失敗を含めた過程を 伝えることが必要
(成田委員)	アスリート本人だけでなく、サポートする裏方にも講演をしてもらうと アスリートや競技、職業を知ることにつながるのでは

( ) は当日欠席